

## 上野地区公民館家庭教育学級

2月3日(火)上野地区公民館で伊予幼稚園の保護者を対象に家庭教育学級が開催されました。はじめに、① 伊予市の「学校・家庭・地域連携事業」② 幼児期における基礎道徳 ③ 子どもの習い事 ④ 基本的生活習慣の育成等についての講話を聞きました。その後、グループで「基本的生活習慣チェック表」をもとに話し合いました。

共通の課題として、「持ち物の整理整頓」「はい・いいえ」の意志表示「話を聞く」等があげられました。家庭では「親がやってくれる」「言葉にしなくても理解してくれる」等の甘えがあるが、将来の自立をめざして、少しずつできる事を増やしていこうとの意見が出ました。また、「鉛筆の持ち方」については矯正が難しいので、持ち始めた時期の関わり方が大事であると再認識しました。

保護者の皆さんは、子どもさんの気持ちや実態をよく理解されており、深い愛情をもって子育てされていると感心しました。また、保護者同士の横の連携が強く、相互扶助の体制が確立されていると安心しました。



### 小学校入学までにどこまでできるかチェックしてみよう!

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 早寝早起きの習慣ができています        | <input type="checkbox"/> ウンチ、おしっこが一人でできる   |
| <input type="checkbox"/> あいさつと「はい」「いいえ」の返事ができます | <input type="checkbox"/> トイレの型が違っても用がたせる   |
| <input type="checkbox"/> 自分で服の着脱ができます           | <input type="checkbox"/> 簡単な交通ルールを知っている    |
| <input type="checkbox"/> 朝ごはんを食べる               | <input type="checkbox"/> 手洗いの習慣がついている      |
| <input type="checkbox"/> 一人でハミガキ、洗顔、手洗いができる     | <input type="checkbox"/> ひらがなで自分の名前が書ける    |
| <input type="checkbox"/> 自分の持ち物を管理したり、整理整頓ができます | <input type="checkbox"/> 自分の名前、住所、電話番号がいえる |
| <input type="checkbox"/> 人の話を最後まで聞ける            | <input type="checkbox"/> 鉛筆を正しく持てる         |



#### しつけるときは次のことに気をつけましょう

- ・しつけに適した時期を逃さずにしつけを始めること
- ・繰り返し、気長に、根気よくしつけること
- ・一定の方針で、一貫した態度でしつけること
- ・子どもの発達段階に即して理解させること
- ・上手にほめたり、叱ったりすること
- ・学校(幼稚園)と家庭が協力すること

わが子があるがママの存在として是認し受け入れることが、親としての最も大切な心構えです。子育てには適時性があります。適時性をとらえ、豊かにかかわる(体験させる)ことによって、たくましい子どもが育ちます。子どもがたくましく生きるための手本となるよう、親自身も共に成長しましょう。

個別の相談や少人数グループの話し合いを希望される方は下記までご連絡ください。

**伊予市家庭教育・子育てサポートグループ**  
 連絡先 ☎ 982-5155 FAX.982-5156  
 〒799-3113 伊予市米湊 768-2(伊予市中央公民館内)

# 「伊予地域家庭教育情報誌」 ほのぼのの 第16号



## 子育てがんばっています!

我が家は、6人家族です。南山崎という地域性もあり、のんびりと生活しています。「子育て奮闘中」という時期は過ぎ、子どもたち個々が、自分の力で、夢に向かって走っている姿を見守る時期になっております。

「みんな、どんな大人になるんだろうか?」楽しみでもあり、不安も少々。これからも、家族みんなが普通に生活出来ている事に感謝しながら、「ほのぼの」と生活できれば幸いです。

祖母：金井智育      子ども：<sup>ともき</sup>知紀・<sup>あやか</sup>綾香・<sup>ゆうた</sup>優太  
 父母：金井哲治、民子      犬：あんこ (大平)

子育て真っ最中の皆様の応援をします。

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ



# 子育てQ&A



5歳児

## 「子どものほめ方・叱り方」について

Q

子どもはほめることが大切だとは思いますが、子どもの悪いことばかり目についてそのたびに感情的に叱ってしまいます。子どものほめ方・叱り方についてアドバイスをお願いします。

A

叱り方・ほめ方のどちらにも言えることは、「子どもの心に寄り添う」ということです。「叱る」場合は、「叱られた意味を子どもなりに十分納得できるように叱る」ということになります。このことを踏まえずに叱ると、「子どもの望ましくない言動をとりあえず中止させる」という対症療法的な効果を得るにすぎなくなります。生命の安全等にかかわることなど、繰り返して叱ることが必要な場合もあるかもしれませんが、叱られる意味がきちんと子どもの心に届いているかどうかの確かめが必要です。

次に、「ほめる」という行為は、「ほめるべきことをほめるべき時にほめる」ということに尽きます。たとえば、「できなかったことができるようになった時」、「約束したことが守れた時」、「何気なく行った言動の中に、望ましい姿が見られた時」などに、「△△だったのに、〇〇になったね」など具体的な言葉で、子どもの心にしっかりと届くようにほめてあげてください。そして、「自分ができる」「成長している」ということを実感させたいものです。

基本的には、「子どもはほめて育てる」ということを念頭に置かれた方がいいと思います。子どもに自信とやる気を持たせるためには、周りの者に愛され必要とされる経験の蓄積が必要です。そして、この蓄積こそが、確かな自己肯定感となって根付き、将来に渡って生きていくための原動力となるのです。

(えひめ家庭教育・子育てQ&A H21.3)

小学生

## 子育てに対する漠然とした不安について

Q

子どもと向き合う自分の態度は、「親として、人間として、これが正解」と言えるものはないような気がして、いつも「これでよかったのだろうか。」「あの時、もっとこうすればよかったのかなあ。」と、振り返っては不安になります。子どもに対して、「何よりもあなたを大切にしている。」という気持ちを、いろいろな場面でいろいろな形で伝えていけたらいいなと思っているのですが、上手く伝えられないもどかしさを感じるがよくあります。

A

子育てや教育に、「これが正解」という方法はありません。当然ながら、どの子どもも一人一人性格が違うのであり、保護者など周りの大人が同じ言動で接しても、子どもによって受け取り方（教育効果）は全く違ってきます。また、同じ子どもでさえも、朝と夕方では気分が違うでしょうし、うれしいこと（逆に、悲しいこと）があった後には、また全然反応が違うことでしょう。こう考えると、子どもへの対応というのは、「機に応じてその状況に最適な言動で接する」ということに尽きるかと思えます。

しかし、だからと言って、親といえども、あらゆる要素を勘案してつねに最適の対応をする、なんてことができるはずがありません。大切なことは、「何よりもあなたを大切にしている」というそのお気持ちをもってお子さんに寄り添う、ということであり、そういう思いから発する保護者の言葉かけや行動は、必ずお子さんの健やかな心身の育ちにつながっていきます。あまり神経質に考えずに、自信をもってください。どのような高名な教育学者の言葉も指導法も、お母様の我が子に対する愛情に裏打ちされた笑顔と言葉かけにはかなわないのですから。

(えひめ家庭教育・子育てQ&A H21.3)

## さっちゃんの子育て相談日記

儀式の意味を知ろう



まだ2年目の若い女教師が涙を流していたことを思い出しました。授業が始まっているのに、教科書も出さないし、歩き回し、注意すると暴れ狂うY男に担任はすっかり自信を無くしていました。「私の指導力が足りないからだと思います。この子にはどう接したらよいのでしょうか」

Y男の両親は立派な家を新築し8月に転居しました。Y男は転校したくないと両親に訴えたのですがその時はすでに家も完成していたので仕方なく転校してきたのでした。前の学校では明るく活発で友だちからの信望も厚く先生にも認められていました。この子は狂ってしまったのでしょうかと母親は嘆きました。

相談室の私に与えられ役目は、自信を失いかけている担任とおかあさんと転校を受け入れられないY男を救うお手伝いでした。

Y男はずっとこのくらしが続くと思っていたのですね。人生には突然の別れというものが多々あります。友だちとの別れ、親との別れ、愛する者との別れなどが、どんな別れにしても魂を抜きとられるほどの虚しさに耐えていかなばなりません。

Y男は今までの自分と決別して、その虚しさに耐え新しい自分へと再生していくための儀式をしている最中なのです。人はこの繰り返しで自己を確立していくのだと考えます。

母親は「叱ったり嘆いたり」の連続でした。息子に謝ります。親の都合を押しつけたことを。きれいな子ども部屋も出来たので喜んでくれるだろうと勝手に決め付けていました。

担任は「私も同じです。あたたかい気持ちでY男さんに寄り添っていきたいと思います。Y男さんが笑顔を取り戻すまで待ちます。」

その後担任の涙は見えませんでした。

(実例をある程度変更および抽象化しています。)

子育て  
相談室

☎ 982-2602 (伊予市教育委員会社会教育課内)

相談内容についての秘密は厳守します。

## 中山小学校での家庭教育学習会

### 「やる気を育てる」

10月10日(金)中山小学校で参観日の後、「やる気を育てる」と題して家庭教育学習会を行いました。中山小学校では毎年開いており、大勢の保護者や教職員が共に学んでいます。学習会では次のような話がありました。

○ 子どものやる気を育てるには、家庭におけるしっかりとした生活の基盤(リズム)を作ることが大事である。そのためには、日常の子どもに向き合う親の姿勢を大切にしたい。親が変われば子どもも変わる。互いに学び合うことが大事である。

○ 子どもはもともと本が好き。大人が本を嫌いにさせている。大人は教育のふりをして、これを読みなさいと言ってしまふ。アンパンマンでもサザエさんでもよい。まず、書店に行って子どもに好きな本を選ばせて、親は文句を言うてはいけない。それが出発点です。

(児童文学評論家 赤木かん子)

○ イノシシは、哺乳動物の中でも「生きる力」の優等生。ぶたは人間の保護なしには生きられない。極端に言った場合、今の子育ては、イノシシになろうとする子どもの本能を、皆が寄ってたかって、ぶたにしようと努力しているようなもの。

○ 食卓ではテレビを消して会話をしてほしい。テレビを見ながらの食事では子どもは我がままになり自立できない。親子がしっかりと向かい合えるのは食卓である。

## 郡中地区公民館 家庭教育学級

1月16日(金)郡中地区公民館で家庭教育学級が開催されました。

子育てで楽しかったことやつらかったこと、悩んでいることなどをグループで話し合いました。最初は遠慮しがちでしたが、話し合っているうちに活発に意見が出るようになりました。

悩みを出しあって話していると、少しずつ安心してくるようです。

「自分の気持ちを受け止め理解してくれた」という実感があつたのかもしれない。



## 絵本の紹介

### 「ええところ」

作 くすのきしげのり  
絵 ふるしょうようこ

「わたして ええところ ある？」  
何かにつまずいたとき、自分に自信がなくなったとき心が元気になる絵本です。

みなさん、大切な人の「ええところ」いっぱいさがしてあげましょう。そして自分のことを好きになつてあげましょう。



(紹介者) 双海読み語り隊 橋本 千春